

## 博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

## I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	唐 権 (トウ ケン)
在住国名	中国
所属・役職	准教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回(2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	国際日本文化研究センター
招聘研究テーマ	文化文政期における来船清人と日本漢学者との交流に関する研究 - 蘇州・長崎・京都・江戸文人ネットワークの誕生と展開 -
研究目的	江戸後期における来船清人と日本人との交流の実像を浮き彫りにする
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>①日本国内の多くの研究機関に足を運び、資料の収集を行った。実際行った場所は、長崎歴史文化博物館(6回)、平戸松浦史料博物館(2回)、神戸市立博物館、海の見える杜美術館(広島)、京大総合博物館、岩瀬文庫(西尾市)などである。また、国会図書館デジタルコレクションなどのデータベースをもフルに利用させていただいた。</p> <p>②個人コレクションにある資料を発掘することにも力を入れた。発見された資料を対象として、日本国内の研究者、学芸員と調査チームを組み、調査を行った(現在も継続中)。</p> <p>③調査で得た資料の一部を解読した上、解説と翻刻を試みた。</p> <p>④調査で得た知見を、研究会やシンポジウムで報告し、他の研究者と議論し、意見交換した。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>日本国内所蔵の来船清人史料を多く突き止めることができた。中でも木下逸雲(1799—1866)が残した大量の書簡や文書などの一次的資料を見つけたことは、最大の収穫だった。これらの資料は十九世紀前期の日中文化交流がいかに盛んだったかを物語る貴重な証拠であり、従来の研究ではほとんど触れられていない。また、研究として最大の成果は、1790年代から1860年代にかけて、蘇州の江一族(江岐発、江稼圃、江芸閣、江星畚)が日本と関係する諸事実を考証する論文を書き上げたことである。</p>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目、掲載誌、発行者、掲載月、内容の概略(200字以内))</p> <p>①「明帝国と日本の富士山攻防戦」(既刊) ふじのくに地球環境ミュージアム編『環境考古学と富士山』、東京:雄山閣、2019年3月 本論文は、主として中国側の文献を駆使して、明末以前の中国と富士山との関係を考察したものである。</p> <p>②「長崎歴史文化博物館蔵『書翰集』について」(既刊) 武内恵美子編『近世日本と楽の諸相』所収、京都市立芸術大学、2019年3月 長崎歴史文化博物館所蔵の『書翰集』は、来船清人の書簡と詩稿計八十数枚を装丁したものである。本文は、それを対象として、その内容を解読・翻刻し、成立の背景や史料的価値を解説したものである。</p> <p>③「来船清人一覧表」(現在作成中、日文研『日本研究』に投稿する予定) 江戸中期以降に作られた様々な来船清人一覧を検討した上で、近年の知見をも取り入れつつ、新しい来船清人一覧表を作成する。今後の研究に資することを期待する。</p> <p>④「蘇州江氏家族来船清人考」(中国語論文)</p>	

来船清人を輩出した江の一族を対象として、江岐発、江稼圃、江芸閣、江星畚の四人の行状(生い立ち、日本渡航の回数、それぞれの学芸など)を考察したものである。

○口頭発表(題目、イベントの名称、日・場所、内容の概略(200字以内))

① 「江芸閣『書翰集』について」

第十四回東アジア比較文化交際会議 2018年9月30日於東京二松学舎大学

報告の内容は、長崎歴史文化博物館所蔵の『書翰集』を取り上げ、その成立と内容について考察したもの。

② 「近代日本の来船清人研究に関する一考察」

長崎をめぐる国際学術ネットワークの構築に向けて、2019年3月19日於長崎大学

日清戦争以降、来船清人をめぐって、日本でさまざまな言説が作られた。本報告は、それらの言説を分析したものである。

③ 「来船清人について」

「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史文化史音楽学的アプローチ」共同研究会、2019年5月29日於京都市立芸術大学伝統音楽研究センター

本報告は、来船清人に関する従来の研究と言説を回顧し、最近新発見の資料を利用して、1830年代長崎の書画会について考察したものである。

④ 「来船清人について 近世日中文化交流再考」

「近代東アジア風俗史」共同研究会、2019年6月2日於(京都)国際日本文化研究センター

従来の日中文化交流史研究は、来船清人という存在を軽視してきた。本報告は、アンチテーゼとして、来船清人が如何に重要だったかを説いたものである。

⑤ 「来船清人研究のフロンティア 新長崎学の挑戦」

「長崎学講座スタンダード」2019年7月7日於長崎歴史文化博物館

本報告は一般市民向けの講演である。内容は、来船清人の研究に関して、戦前の長崎学から、最近の研究成果に至るまで、さまざまな話を盛り込んだものである。

○その他の活動

本務校のオンライン講義(MOOC)「中国人和日本語 一個文化史的考察」のコンテンツを作ったこと。

4. 今後の活動予定

① 「来船清人一覧表」の作成を完成させること。

② 論文「蘇州江氏家族来船清人考」(中国語)を完成させ、中国語圏の学術誌に投稿すること。

⑤ 滞在中に集めた書簡資料を整理・解読し、図録の出版を目指すこと。

⑥ 滞在中に始めた来船清人関連資料調査を継続させ、最終的に調査報告書の形で成果を出すこと。

⑤ 来年度から、日文研の長崎共同研究に参加すること。